



# AUE News

2012年6月1日

第 41 号

編集・発行  
愛知教育大学広報部会  
TEL 0566-26-2738  
FAX 0566-26-2500



## 目次

- 行事予定(6月1日-15日)
- トピックス
  - ・第43回大学祭
  - ・協定校フライブルク教育大学創立50周年式典に松田学長ら出席
  - ・東海テレビが「わくわく訪問科学実験」取材
  - ・金環日食観望会
  - ・風岡正明名誉教授が書道作品を本学に贈呈
  - ・スペースAquaで「手芸展」
  - ・招へい研究者池建新先生の学術講演会
  - ・第2回広報セミナー
- ・ボールステイト大学から研修訪問
- ・愛知県知事に4市長と要望提出
- ・豊田東高等学校、安城南高校が本学見学
- ・東海・北陸地区国立大学学生関係副学長・部課長会議開催
- ・大学院博士課程開設記念式典
- お知らせ・報告・投稿
  - ・愛知教育大学国語教育公開講座のお知らせ
  - ・セミナー「Mathematicaによるデータ解析」
  - ・教職大学院のイベント
  - ・その他の催しもの案内

## 行事予定(6/1-15)

- 1日(金) 名誉教授称号授与式(11:30～ 第五会議室)
- 5日(火) 役員部局長会議(13:00～ 学長室)
- 6日(水) 教務企画委員会(13:30～ 第二会議室)  
学生支援委員会(13:30～ 第五会議室)  
大学改革推進委員会(15:30～ 第三会議室)
- 13日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30～ 大学会館中会議室)  
代議員会(13:30～ 第五会議室)  
教員人事委員会(17:10～ 第五会議室)

## トピックス

### 第43回大学祭(5/16-20)

「第43回愛知教育大学大学祭」が5月16日(水)～20日(日)に、本学キャンパスで開催され、多くの学生や一般参加者でにぎわった。

今年のテーマは「環～みんなでひとつに～」。  
平日の16～18日はスポーツ祭で第一・第二体育館、野球場などを会場に、バドミントンやバスケットボール、バレーボール、卓球、ミニサッカー、ソフトボール、借り物競走の7種目が行われ、各チームが声を掛け合い、力を合わせて競い合い、スポ祭を満喫した様子だった。

週末の19、20日は大学祭のクライマックス。クラブ・サークル、選修・専攻による模擬店が構内各所に出店して、たこ焼きや焼き鳥、ジュースなどを販売。学生は店舗の装飾やメニューに工夫を凝らして、来場者を呼び込む元気な声で盛り上げた。教室では書道展や漫画展、お化け屋





敷、落語、人形劇、アカペラなどが披露され、教育実習紹介、国際交流の協定校の紹介や、附属図書館前の野外ステージではバンド演奏やお笑い芸人による舞台やビンゴ大会、大学会館では演劇、茶道と多彩な企画が繰り広げられた。また、6年一貫コースの学生は大学院での学びと大学祭の様態を伝える記事を盛り

込んだ「ろくいち新聞」を発行し、来場者に配った。

大学祭実行委員会によると、週末2日間の来場者は例年と同様約4000人。若本陽介委員長は「今年は天候にも恵まれて、多くの方に参加してもらえました。学祭で皆さんと楽しい気持ちを共有し、つながり合いたいという狙いが、ほぼ達成できました」と満足そうだった。



### 協定校フライブルク教育大学 50周年式典に学長ら出席(5/16)

本学の協定校である、ドイツ・フライブルク教育大学の創立50周年記念式典が5月16日(水)、同大で開催され、本学の松田正久学長、宮川秀俊国際交流センター長、濱田泰栄総務課長、同センターの宮内が出席した。



本学とフライブルク教育大学は、2006年3月に交流協定を締結。本学は同大学がアジアに持つ唯一の協定校ということもあり、締結以来、学生交流(学生の受入・派遣)や教員の共同研究を中心に、活発な交流活動が展開されている。

記念式典は、ウルリヒ・ドゥルーヴェ学長のあいさつや来賓の祝辞、名誉博士号の授与の合間に音楽演奏や寸劇が折り込まれ、著名な芸術の都を擁するドイツならではのものだった。式典終了後は、学食での昼食会に続いて海外からの来賓を対象にキャンパスツアー

が行われ、ドゥルーヴェ学長自ら案内役となり、芸術専攻学生の作品展示場や被服・調理実技教室、実験棟や音楽棟などを見学した。

見学後は、式典会場に戻り懇親会に参加。各協定校からの記念品贈呈セレモニーや協定校同士の意見交換の場が設けられ、フライブルク教育大学関係者はもちろん、欧米をはじめとする多くの海外大学と親交を深める良い機会となった。また、この会には本学から交換留学生として留学中の学生2人も参加しており、松田学長からは「留学中にさまざまな物事に果敢に挑戦し、その経験を今後の生活に活かしてほしい」と力強い励ましの言葉が述べられた。

この後、フライブルク市内中心部に会場を移しての夕食会でプログラムは終了。参加者は自国とドイツの教育制度や大学教育について、遅くまで熱心に語り合っていた。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 宮内春菜)



### わくわく訪問科学実験を東海テレビが取材(5/18)

本学の理科実験サークル「わくわく訪問科学実験」を取材しようと、東海テレビ制作の地元密着バラエティー番組「あげテン」の出演者が5月18日(金)、本学を訪れた。

この日午前、サークルのメンバーが普段行っている実験を紹介しようと、自然科学棟の実習室で白衣姿で待ち受けた。間もなく、番組のスタッフと出演者の人気お笑い芸人「我が家」「ロッチ」の5人が到着し、収録がスタート。まずは、サークルについて質問されたメンバーは、「小



学校や中学校を訪問して科学実験をするサークルです」と説明し、小学生に好評の実験を披露した。「液体窒素」を使った実験では、バナナを瞬時に凍らせて、くぎ打ちして見せたり、バラの生花を冷凍させ、それを握ると粉々に砕ける様子に、出演者たちが興奮。ほかに「巨大シャボン玉」「空気砲」などの実験を実演して、学生は芸人たちと果敢にやり取りして、現場を盛り上げた。

この後は、メンバーたちが「実験には自信があるが、それ以外で小学生をもっと喜ばせたい！」と芸人たちを連れて、小学校を訪問。一緒に科学実験を披露することになり、果たして、子どもたちを喜ばせることができるのか…、というところで学内での収録は終わった。

この模様は6月21日（木）深夜零時40分から放送の予定。

### 金環日食観望会(5/21)

5月21日（月）朝、「金環日食特別観望会」が自然科学棟の屋上で行われた。

この日の観望会は、金環日食に合わせて、午前6時からスタート。早朝にもかかわらず、一番乗りは午前5時40分に京都からやって来た来場者。6時の開始時間から屋上を開放すると、金環日食をこの目で見ようという幼稚園児から大人まで幅広い年代の人が次々に来場。この地域で金環日食が観測でき



るのは932年ぶりとあって、7時ごろには100人余が詰めかけ、日食観測用グラスを手に日食開始を待ち構えた。当初は空が厚い雲に覆われていて観測ができないかと思われたが、7時17分ごろには雲が切れ、太陽が徐々に欠けていく様子を10分ほど見ることができた。来場者からは「おお〜」と歓声上がり、一斉にメガネを通して観測が行われた。しかし、金環になる前に雲に隠され、リング状の日食は観察することが

できなかった。再び太陽が顔を出した時には、金環を過ぎて、反対側に欠けた日食が見られた。

日食グラスのほか、「愛知教育大学 2012」などと文字に沿って細かく穴を開けたピンホールに写した日食も観測された。中には4月の工作教室に参加した幼稚園児が、自作の「トトロ」のピンホールで日食を嬉しそうに観察するほほえましい姿もあった。

観測会を主催した澤武文教授（理科教育）は「金環こそ観測できなかったものの、大勢の参加者に日食を観測してもらうことができ、ほっとしている」と胸をなで下ろした。



### 風岡正明名誉教授が書道作品を寄贈(5/21)

国語教育の風岡正明名誉教授が自作の書道の作品を大学に寄贈、本部棟玄関ホールに掲げられた。

寄贈された作品は、「濟美」と力強く書かれた大作。「美を濟（な）す」とも読まれ、意味は「先祖の美德を受け継いで立派に成し遂げること」で、魯の季文子が宣公に言ったことば。作品には解説のプレートも添えられ、本部棟の玄関ホール東側に掲げられると、職員や来訪者が足を



止めて作品に見入る姿も。

5月21日(月)には、設置を完了した作品の前で、風岡名誉教授と松田正久学長が固い握手を交わし、松田学長は「大変立派な作品を寄贈いただき、感謝申し上げます。この作品にふさわしい大学であるように努力していきたい」とお礼を述べた。風岡教授も「このような場所に飾っていただき光栄です。大学の発展を祈っています」と答え、しばし談笑した。

玄関ホールに美術作品が飾られたのは、中島晴美教授(美術教育)の陶芸作品に次いで2作目。

### スペースAquaで「手芸展」(5/21-27)

刈谷駅前商店街のスペースAquaで本学卒業生による「Momo & Kako's Homemade works〜手芸展〜」が5月21日(月)〜27日(日)に開催された。

同商店街との共同事業「Uno コレクション」の5月の展示企画。2000年に本学初等・美術科を卒業した松山佳子さん(安城市在住)と勝田桃子さん(岡崎市在住)がデザインした子ども服や小物など約50点を展示している。Unoセレクションをプロデュースする宇納一公名誉教授(美術教育)の教え子でもあり、現在は共に子育て中の2人。



子どもたちに着せたい洋服を手作り。花柄やデニムにレースやリボンをあしらった可愛い女の子用の洋服などが飾られ、会場は華やいだ雰囲気がいっぱい。



26日(土)27日(日)にはワークショップ「ノートに刺繍しちゃおう！」が開かれ、親子連れが参加。クロスステッチでノートの



表紙に果物や動物のモチーフを刺繍。子どもたちは細かな作業にも集中して取り組み、サクランボやイルカなどの刺繍を完成させて、満足そうだった。



松山さんと勝田さんは「これが初めての展示。今までは自分の子どもに着せて家の中で満足していましたが、多くの方から、「かわいい」と言ってもらえると、作りがいがあります」「これをきっかけに創作や販売も展開していきたい」と、手応えを感じた様子だった。

### 招へい研究者 池建新先生の学術講演会(5/22)

学術交流協定校である南京師範大学から招へい研究者として来日した池建新准教授が5月22日(火)、日本語教育の稲葉みどり教授と川口直巳助教の合同授業において、「中国語と中国文化」というテーマで学術講演会を行った。

池准教授は「中国語の挨拶用語の特性」「中国語の色彩語の文化的意義」「中国語の犬に関する言葉」「中国人の数字に関する好き嫌い」など具体例を挙げながら、言葉と文化を合わせて研究する重要性を説明した。同氏は講演で「言語と文化を同時に研究すると、文化の角度から言語を一層よく認識でき、言語の語音、語彙、文法などの民族の特徴を理解することができます。言語学の研究成果が応用される最大の分野は言語の習得と言語教育です。学習と教育は母語でも、第二言語でも、言語と文化を関連づけることで、その言語の特徴をよりよく把握し、効果を高めるのに役立つものです。コミュニケーションの面においても、民族間の言語文化の相違を十分に

理解すれば、文化的な障害を克服して、順調な交流を促進することができます」と述べた。

池准教授は本学の印象については、「静かな大自然に囲まれていて、長い歴史と伝統があり、広大なキャンパスはリベラルな大学生活を送るのに相応しい環境。師範教育\*の真髄を守っている愛教大と南京師範大学の交流の深まりを期待しています」と語っていた。（\*編集者注記：わが国の今日の「教師教育」にあたる意味で「師範教育」と言われている。）



## 第2回広報セミナー(5/23)

大学運営において益々大切になる広報について教職員や学生に知ってもらおうと、本学が主催の「第2回広報セミナー」が5月23日(水)午後1時30分から、第五会議室で行われた。



講師は南山大学の副学長、青木清氏。15年余にわたり大学の広報を統括してきた経験の基に、「教員・職員・学生一広報における3者のコラボ」をテーマに講演。大学広報の変遷を説明し、大学ホームページで高校生向けに教員の紹介を掲載、職員広報スタッフ・学生広報スタッフの活躍ぶりなど、効果を上げた具体例を紹介。高校訪問や保護者懇談会、オープンキャンパスなど、私学が早くから取り組んできたことから、その問題点や解決策などを挙げ、「教職員全員が広報員という意識が大切」「3者がそれぞれ得意な部分で活躍できるような役割分担をすることで、広報

活動が上手くいくようになった」と話した。また、「今後、少子化で受験生が激減するため、今、やっておかなければ大学の存続も厳しいという意識で取り組んでいる」と、将来を見越した広報の必要性についても述べた。

この日参加したのは、職員、教員、学生など計32人。参加者のアンケートからは「広報は自分の業務にあまり関係ないと思っていたが、高校訪問など参考にしたい例が多かった。参加してよかった」「得意な分野で3者が広報の役割を担うのは、いい方法だと思った」などの感想が寄せられ、好評だった。



## 協定校ボールステイト大学からの研修訪問(5/23-30)



5月23日(水)から30日(水)までの1週間、本学の協定校であるアメリカ・ボールステイト大学から、松本一美先生と学生9人が、研修のため本学を訪問した。

この研修は、日本語教育講座・稲葉みどり教授が主体となり、

3人の学生(今年度後期から同大学へ留学予定の学部学生2人含む)と同大学からの交換留学生の協力を得て実施。稲葉教授による日本語学習のほか、刈谷市立富士松北小学校訪問、本学課外活動見学(空手部、茶道部、弓道部)などのプログラムが進められた。

課外活動見学では、空手の型やミットを使っの突きの体験、



茶道体験、弓道の実技見学などの日本文化体験を通じて、本学学生との交流を行った。

富士松北小学校訪問では、朝の全校集会に参加、子どもたちの熱烈な歓迎を受け、一人ひとりが日本語で自己紹介した後、同校の児童たちに混じって、「マルモリ体操」を楽しんだ。



また、事前に準備した自作の資料でボールステイト大学の所在地であるアメリカ・インディアナ州の説明が行われると、子どもたちは、同州がマイケル・ジャクソンの出身地であることや、朝食からハンバーガーやステーキを食べるといった話に興味を示していた。

全校集会終了後は、音楽、体育、書道の授業を見学、リズム体操や書写活動を通して子どもたちと触れ合い、最後は各クラスに分かれて給食を体験し、半日にわたる日本の小学校生活体験を楽しんだ。

なお、同大学からの一行は、5月初旬から日本に滞在しており、東京や京都への訪問に続き、最後に本学を訪れたもので、最終日には、各自プレゼンテーションによる総括を行い、日本訪問研修プログラムを締めくくった。（教育創造開発機構運営課副課長 国際交流担当 前川由光）

### 愛知県知事に4市長と要望提出(5/24)

松田正久学長は4月下旬から5月上旬にかけて、本学が包括協定を結んでいる刈谷、知立、安城、みよしの各市役所にそれぞれ4市長を訪ね、静岡大学との共同教科開発学専攻（後期3年博士課程）開設への協力にお礼を述べるとともに、本学の教員養成の機能強化に関する取組・連携の充実とともに、現代学芸課程の学部化についても理解と支援を求めた。



松田学長は竹中良則刈谷市長、林郁夫知立市長、神谷学安城市長、久野知英みよし市長と現代学芸課程の現状と学部化の意義について懇談。4市長は卒業生の多分野での活躍などを確認し、本学発展への協力に理解を示すとともに、連名で大村秀章愛知県知事に対して本学支援の要望書を提出することになり、5月24日（木）、松田学長、折出健二・都築繁幸両理事とともに県公館で知事と面談した。4市長（みよし市は小野田恵一副市長が代理出席）は「愛知教育大学を西三

河の基盤大学と位置づけ、質の高い教員養成と県教委との連携強化、新学部創設にご支援をお願いする」との要望書を知事に手渡し、学長も本学の教員養成機能の充実と将来構想への支援に関する要望書を別途手渡した。

4市長は「新しい学部で地域の発展に愛知教育大学が寄与してくれることを期待している」などと理解を求め、知事も「具体的な対応を検討したい」と答えた。

また、これと並行して学長は、石丸典生愛知県博覧会協会会長、稲垣考俊愛知県学校図書館研究会会長に会い、博物館との連携、学生のための学芸員、学校図書館司書教諭の資格取得に関する大学間連携について協力、支援を要請し、両会長は協力を快諾した。

〈写真は、右から林知立市長、神谷安城市長、大村愛知県知事、竹中刈谷市長、松田愛教大学長、小野田みよし市副市長、折出理事、都築理事。〉

### 豊田東高校、安城南高校が本学見学(5/24,31)

愛知県立豊田東高等学校の1年生40人と教員3人が、5月24日（木）午前、本学を見学を訪れた。

一行は本部棟第五会議室で、大学概要、入試、カリキュラムについて担当課職員からそれぞれ説明を受けた。各局員は事前に寄せられた質問「どんなクラブ・サークルがありますか」「国立大学の利点は何」「卒



業後はどんな進路がありますか」などに答えながら、分かりやすく説明した。

その後は、構内を見学。第一共通棟、附属図書館、体育館、ガラス工房などを見て回り、大学生活のイメージを膨らませたようだった。

\*

また、5月31日（木）には、愛知県立安城南高校の3年生5人が、大学見学に訪れた。

生徒は本部棟第五会議室で、教務課、入試課、秘書広報課の職員から大学概要、カリキュラム、入試についての説明を聞いた後、今井正之助教授（国語教育）による模擬授業を受けた。

授業のテーマは「『平家物語』と「源氏」物語」。

「平家物語」について、作品そのものについての理解や、背景、系図の解説もあり、生徒から「大学の授業は難しかった」との感想もあったが、今井



教授からの言葉にあったように「大学では、それぞれの分野において、高校とは違い、より深く勉強することができる」ことを経験できた様子だった。

昼食をとり、午後は施設見学を行った。階段教室の机に座って学生気分を味わったり、ガラス工房では、佐々木准教授による実演・説明を受け、目の前で変化するガラスに驚いていた。図書館、体育館等、施設を見学の後、帰路についた。

\*



#### 東海・北陸地区国立大学学生関係副学長・部課長会議(5/25)

本学が当番校となり、5月25日（金）に東海・北陸地区国立大学学生関係副学長・部課長会議が名古屋市内のホテルで開催された。



東海・北陸地区の12大学から副学長・部課長32人が出席、文部科学省、日本学生支援機構、国立大学法人保健管理施設協議会からオブザーバーも出席。松田正久学長が、本学の学生支援の取り組みを紹介しながら当番校としての歓迎のあいさつを行った。その後、文部科学省高等教育局学生・留学生課の森山睦課長補佐・専門官のあいさつと「学生支援について」の説明があり、日本学生支援機構学生生活部小山晴己副部長から「学生生活支援事業」の説明が行われた。

会議は、本学都築繁幸副学長を議長に選出し、協議事項2件、承合事項5件について協議及び意見交換した。協議事項の「多様な学生へのメンタルヘルス支援を中心とした保健管理センターの役割について」では、オブザーバー出席の国立大学法人保健管理施設協議会苗村育郎氏、守山敏樹氏から提案理由と保健管理センターの役割の多様化についての説明に続き討議した。協議事項の「教務・学生支援における対応の在り方について」では、本学の岩崎公弥副学長が事例を交えた提案理由を説明した後、出席大学から現状を踏まえ窓口対応の多様化に教職員の「困り感」解消に向けた取り組みの在り方を協議した。熱心な意見交換が続き閉会予定時刻を大幅に延長し、承合事項は確認のみに留めた。次回は静岡大学を当番校として開催することを確認し閉会した。

閉会後の情報交換会では、参加者が文部科学省の森山課長補佐を囲み、予定時間いっぱいまで情報交換が行われた。  
(教務課教務企画係長 古川健)

#### 共同教科開発学専攻(後期3年だけの博士課程)の開設記念式典(5/26)

愛知教育大学及び静岡大学の大学院教育学研究科に、本年4月に新しく設置された共同教科開発学専攻の開設記念式典が、5月26日（土）、100人を超える出席者を迎えて名古屋市内のホテル

ルで盛大に行われた。



松田正久愛知教育大学長が「本共同専攻の設置により、幼稚園から大学までの教員を養成する体制ができたことを強みとして生かしつつ、全国の共同大学院のモデルケースとなるよう、静岡大学と共同でしっかりと充実に努めたい」とあいさつ。次いで、伊東幸宏静岡大学長は、「このような時期に教員養成系の博士課程の設置されたのは高度な教員養成の拠点としての期待と同時に、責任を認識している」と気を引き締めつつ、「初心を忘れずに研究に取り組んでほしい」と学生を激励した。



次に、文部科学省池田貴城大学振興課長が「教員養成の高度化へ応えるものとして大いに注目している」と期待を述べた。また、愛知県、静岡県をはじめとして、名古屋市、静岡市、浜松市の各教育委員会教育長からの祝辞が続き、地域貢献への期待が寄せられた。

続く記念講演会では、日本教育大学協会長で現東京学芸大学長の村松泰子氏が「これからの教員養成と博士課程への期待」と題した講演を行い、次に、両大学を代表して都築繁幸専攻連絡協議会議長が、共同教科開発学専攻の必要性・役割等について説明した。



同専攻の門出を祝う温かい会となった。

祝賀会では、設置に尽力された前文部科学省高等教育局長で現東京大学理事の磯田文雄氏が「今は転換期であり、変革に対応できる新しい指導法、教科教育、カリキュラムづくりが必要。そのために、しっかり博士課程で学問を身に付けた教員を育ててほしい」と激励。その後も多くのお祝いや激励の言葉が続き、本共

(総務課長 濱田泰栄)

## お知らせ・報告・投稿

### 第3回愛知教育大学国語教育講座公開講座(お知らせ)

本年も、一昨年、昨年に続いて、下記の通り公開講座を行います。ぜひともご参加いただき、有意義なひと時を共有できますよう、ご協力のほどお願いします。

\*

**日時** 2012年7月28日(土) 13時~17時

**会場** 知立市中央公民館 大会議室(80名定員) 名鉄「知立」から約1km。知立中学校と知立市役所の間にあります。(Tel 0566-83-1165)

**参加費** 1000円 ※当日、受付にてお支払いください。

**申込み** 7月20日(金)までに①氏名(ふりがな)②所属③連絡先住所・電話番号・Eメールアドレスを明記の上、Eメール・郵送いずれかの方法で、下記丹藤博文研究室宛にお申し込みください。定員になり次第受付を終了させていただきます。

**スケジュール** 13:00 受付開始 13:30 第一部「文法を学ぶことの楽しみ」佐々木敦志(阿久比町・草木小) 塩野谷文雄(愛教大附岡崎中) 矢島正浩(愛知教育大)  
15:00 第二部「文学教材を読み深める」加藤多恵子(西尾市・寺津小) 佐藤寿生(名古屋市・日比野中) 丹藤博文(愛知教育大)

**司会進行** 中田敏夫・有働裕(愛知教育大) 16:50 閉会予定

※閉会后、会場付近にて懇親会を予定しています。こちらも、ぜひご参加ください。

#### 【申込み・問い合わせ先】

448-8543 刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学 国語教育講座 丹藤博文研究室

TEL 0566-26-2223 E-mail h-tandoh@aecc.aichi-edu.ac.jp



## セミナー「Mathematica によるデータ解析-研究・教育における活用と展開-」(お知らせ)

大学における研究・教育で広く利用されている統計解析ソフト「Mathematica」を開発しているウルフラムリサーチ・アジアリミティッドより講師を招いて、セミナー「Mathematicaによるデータ解析-研究・教育における活用と展開-」を開催します。統計解析、先進的な回帰分析機能や効果的な可視化方法について、既に使用されている方から初めて使用される方にまで、分かりやすく、実践的な内容で、Mathematicaを操作しながら、その活用と展開を紹介します。興味のある方は、ぜひご参加ください。

\*

**日時** 2012年6月6日（水）13時30分～15時00分

**場所** 愛知教育大学 情報処理センター 2階 マルチメディア演習室

**講師** ウルフラムリサーチ・アジアリミティッド

テクノロジーエヴァンジュリスト/セールスエンジニア

理学博士 中村 英史 氏

**対象** 愛知教育大学の教職員、学生（学部・大学院等）どなたでも参加できます。

**費用** 無料

Mathematicaのご紹介（日本語） <http://www.wolfram.com/index.ja.html>

当日の資料のダウンロード <http://download.wolfram.com/?key=LZYVE5> 有効期限6月7日まで

※ 事前の申し込み不要。教職員・学生の方、参加可能。

※ 当日ご紹介いただきたいテーマや例題がありましたら、下記の水野までお知らせください。

※ これから使用したいという方にもわかりやすい内容となっております。

### 【問い合わせ先】

愛知教育大学 地域社会システム講座 水野英雄

TEL・Fax 0566・26・2507 E-mail [hmizuno@aeu.ac.jp](mailto:hmizuno@aeu.ac.jp)

## 教職大学院のイベント(お知らせ)

教育実践研究科（教職大学院）から6月、7月に開催のイベントのお知らせです。

\*

\*

### ●教育実践研究科（教職大学院）体験授業

教育実践棟模擬授業室

講義形式：ワークショップ型・各30分

両日終了後に入試説明会を開催いたします

6月2日（土）13:30～14:45

対象：小・中学校の現職教員

① 「学級担任の見方・考え方」

② 「1枚指導案を書いてみよう（小学校6年生歴史）」

6月20日（水）13:30～14:40

対象：教職を目指す大学4年生

① 「子どもとのキャッチ&レスポンス能力を磨く」

② 「子どもとの出会いを演出する～学級びらきのポイント～」

### ●教育実践研究科（教職大学院）公開授業

第一共通棟302教室

両日終了後に入試説明会を開催いたします

7月3日（火）

① 10:50～10:40 「カリキュラムの開発と評価Ⅰ」

② 13:20～14:50 「授業づくりの内容と方法」

③ 15:00～16:30 「自律する学校づくり」

7月6日(金)

- ① 10:50～10:40 「心の教育と道徳教育の推進」
- ② 13:20～14:50 「問題行動の理解と生徒指導・相談活動の進め方」
- ③ 15:00～16:30 「学級経営ワークショップ」

問い合わせ・参加申し込み：教務課教職大学院担当係

support\_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

詳細は、教職大学院ホームページを参照

<http://www.aichi-edu.ac.jp/kyoshoku/>

## その他の催しもの案内

- ◆U n oセレクション「山枡紳二郎 絵画展」  
6月2日(土)～10日(日) 10:00～17:00 水曜休  
刈谷駅前商店街「スペースA q u a」  
刈谷市在住、東京芸術大学卒業後、空間デザイナーとして公園モニュメントなどのデザインを手がける。2007年「刈谷百景7」大賞、2010年刈谷市文化祭美術展市長賞。  
問い合わせ Tel 080・1568・2656  
ホームページ <http://www.web-aqua.info/>
- ◆愛知教育大学天文台第73回一般公開  
6月4日(月) 18:00～19:00 入場無料、申し込み不要  
自然科学棟5階 地学538教室 雨天時も講座は開催  
18:00～19:00 天文ミニ講座「最も近い天体・月」  
講師 澤武文教授  
19:00～21:00 観望会「部分月食観望会」  
問い合わせ：理科教育講座天文学研究室 Tel 0566・26・2624  
詳細は、天文台ホームページを参照  
<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>
- ◆愛知教育大学天文台 金星日面通過特別観望会  
6月6日(水) 7:00～13:00 入場無料、申し込み不要  
自然科学棟屋上  
問い合わせ：理科教育講座天文学研究室 Tel 0566・26・2624  
詳細は、天文台ホームページを参照  
<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>
- ◆シンポジウム「今後の教員養成高度化の在り方ー新免許状創設で大学に求められるものは何かー」  
6月9日(土) 13:30～16:30 参加無料  
名古屋ルーセントタワー 16階 ビジネスサポートセンター  
愛知県をはじめとする近隣の教員養成を行っている大学関係者と意見交流し、「今後の教員養成高度化の在り方」をテーマに開催。  
申し込み問い合わせは、愛知教育大学教育研究支援部教務課  
Tel 0566・26・2679
- ◆夏のランチタイムコンサート  
6月27日(水) 12:30～13:15  
附属図書館2階 アイ♥スペース

音楽選修・専攻 2・3 年生合唱選択者が出演。曲目「花」「さくら」「空の正面」ほか。

### 編集後記

5月下旬から「天体ショー」が続いています。5月21日「金環日食」、6月4日「部分月食」、6日「金星の日面通過」。本学の天文台でも観望会を行い、小さなお子さんから年配の方まで、多くの方が来場されます。中には「初めて愛教大に来ました」という声もあって、“ちいきの大学”として、お役に立っているのを実感できる嬉しい瞬間でもあります。宇宙の不思議に、集まった人たちが皆で、ドキドキ、ワクワクできる観測会。準備に当たる澤武文教授や学生さんは大忙しですが、来場者の皆さんの笑顔に、苦労も吹き飛んでいるのではないのでしょうか。(K)

### 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二